

■ご挨拶

IECRE 再生可能エネルギー認証システム

日本風力発電協会 理事 鈴木 章弘
株式会社風力エネルギー研究所 取締役
IECRE 風力発電管理運営委員会 (WE-OMC) 副議長



2014年5月から理事(政策部会副統括)を務めております。

風力発電システム標準化(技術規格策定)

風力発電システムの国際標準化は1988年から、IEC(国際電気標準会議)の技術委員会TC88で進められています。最近では、日本からの提案で台風(極値風速)や高い乱流強度に関する技術要件を追加したIEC 61400-1 Edition 4が承認され、2018年初めに正式発行される見込みになっています。海外の風車メーカーの一部は既にこの規格に盛り込まれた台風仕様(クラスT)に対応する新型風車を開発しています。

日本国内では日本電機工業会(JEMA)が事務局となり、IEC国内委員会として活動すると同時に、国際規格のJIS化(日本工業規格)も進めています。

IECRE 再生可能エネルギー認証システム

風車本体の規格への適合性を評価する「型式認証(Type Certificate)」や、洋上風力発電所のような大規模プロジェクトのサイト適合性、輸送・建設、維持管理も含めた事業全体を評価する「プロジェクト認証(Project Certificate)」などの認証は、欧州の認証機関などが独自に提供してきましたが、国際的に共通な適合性評価制度、認証システムとして、IECRE 再生可能エネルギー認証システムが正式にスタートしました(<http://www.iecre.org/>)。IECREは、各認証機関が独自に行ってきた認証を、国際的に共通な制度とすることを目的としており、審査の内容を統一すること(Harmonization)や、認証機関の間で認証を認め合う相互承認(Mutual Recognition)を制度に盛り込み、ひとつの認証を得れば、それが世界のどこでも通用することを目指しています。風力発電(WE)、太陽光発電(PV)、海洋エネルギー(ME、Marine Energy)の三分野を対象としています。

その中で、風力発電部門の制度構築が最も進

展しています。2016年中に型式認証書第1号が発行され、2016年10月のフロリダ会議でIECREの船出を祝うセレモニーが開催されました。

認証機関や試験機関(試験所)がIECREの正式メンバーとして参加するためには、認証機関であればISO/IEC17065、試験所であればISO/IEC17025の認定(Accreditation)を、認定機関(日本は例えば、公益財団法人日本適合性認定協会、JAB)から受けた上で、IECRE事務局を中心としたチームによるPeer Reviewを受ける必要があります。この手続きも順調に進んでおり、参加の承認を受けた機関がIECREウェブサイトに記載されています。

日本からは、認証機関として(一財)日本海事協会(ClassNK)が参加の手続きを進めています。日本から風力発電分野で参加を申し込んだ試験所はこれまでのところはありません。

WEIT : (株) 風力エネルギー研究所

2004年10月設立で、2017年10月で設立から13年になります。風力発電技術コンサルタントとして、風車設計や認証取得に関わる空力弾性解析等の荷重解析サービスを提供しています。また、風力発電事業者や金融機関からの委託業務として、複雑地形における風況解析・発電量予測、極値風速及び乱流強度の推定、風車音予測などのプロジェクト開発支援業務、各種の委託研究及び調査業務も実施しています。

2015年1月からは日本海事協会と資本業務提携して、風車の認証取得に関連する技術サービスも提供しています。

REMTEST : 再生可能エネルギー試験計測(株)

風車の性能・荷重計測などのフィールド試験を実施する日本で最初の機関となることを目的として、2016年11月に長崎県長崎市に設立しました。

今後とも会員各位のご指導の程よろしくお願いたします。